

HotShot Release 7 クライアント・ガイド

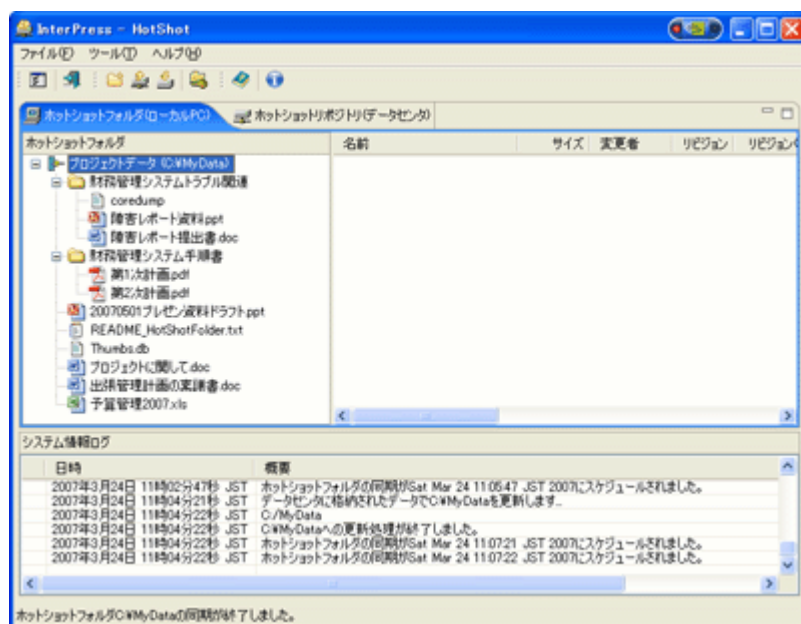
HotShot クライアントは、クライアント PC で稼働するデータ同期エージェントです。HotShot クライアントはデータセンタと透過的に通信を行いデータの同期処理を行います。またデータセンタに格納されたデータを差分ベースで閲覧するためのデータセンタ・ビューを提供します。データセンタ・ビューを利用して過去のデータを簡単に取り出すことができます。

- クライアント PC とデータセンタ間でのデータ同期機能
HotShot クライアントはあらかじめ登録されたクライアント PC 上のフォルダを監視します。そしてフォルダの内容が更新された場合は、変更差分データを抽出してデータセンタに同期します。監視モードは自動並びに手動が選択できます。同期ポリシーは、常にクライアント PC 上のデータをデータセンタに同期するものと、データセンタに格納されたデータをクライアント PC 上に反映するものが用意されています。これら設定は GUI 画面から簡単に設定することができます。
- データセンタに格納された世代バックアップデータの管理ビュー
データセンタに格納されたデータに対する操作を行うことができます。GUI ベースのデータセンタ・ビューにより、データセンタに格納されたデータの一覧を表示したり、世代単位で取り出したりすることができます。

起動方法

通常のインストールが実施された場合には、Windows 環境にログインを行うと自動的にアプリケーションが実行されます。個別に起動する場合は HotShot 製品が導入されたインストールから HotShot.exe を起動します。

HotShot クライアントが起動すると、データセンタとの同期処理の確認ダイアログが表示されます。これは Windows 環境にログインをした際の初期データ同期を意味します。

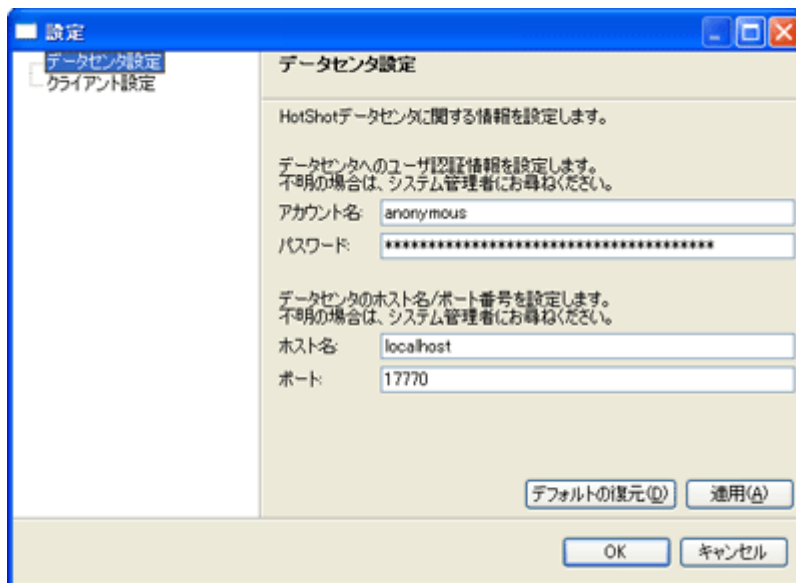


クライアントの基本設定 - プロパティ設定

[ファイル(F)] -> [プロパティ(P)]を選択して HotShot クライアントプロパティ設定を行います。プロパティ設定では以下の項目を設定することができます。

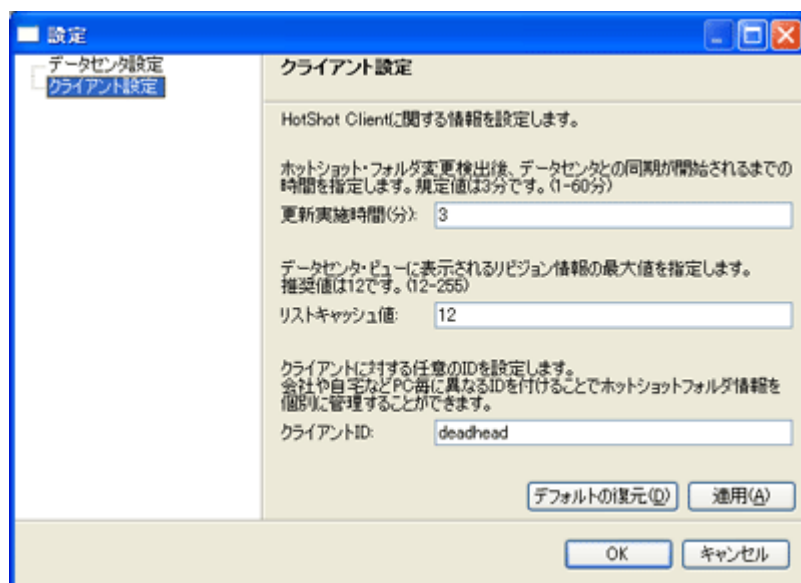
- **データセンタ設定**
データセンタのホスト情報と認証情報を設定します。これらはあらかじめシステム管理者によって通知されるものです。
- **クライアント設定**
HotShot フォルダに対する自動監視周期等を設定します。

データセンタ設定タブ



- **アカウント名**
データセンタにアクセスするためのアカウント認証情報です。通常はサーバ管理者によってアカウント名が設定されます。アカウント情報が不明の場合にはサーバ管理者にお問い合わせください。
- **パスワード**
データセンタにアクセスするためのアカウント認証情報です。通常はサーバ管理者によってアカウント名に対応したパスワードが設定されます。パスワード情報が不明の場合にはサーバ管理者にお問い合わせください。
- **データセンタホスト名**
HotShot サーバが稼働するデータセンタの情報です。HotShot サーバが稼働するホスト情報を設定するものでホスト名前、もしくは IP アドレスを設定することができます。デフォルトは localhost が設定されます。
ホスト名が不明な場合にはサーバ管理者にお問い合わせください。
- **データセンタポート名**
HotShot サーバが稼働するデータセンタの情報です。HotShot サーバが稼働するポート番号を設定します。0 から 65535 までの値を設定することができます。デフォルトは 17770 番が選択されます。
ポート番号が不明な場合にはサーバ管理者にお問い合わせください。

クライアント設定タブ



- 更新実施時間**

監視モードが有効に設定されたホットショット・フォルダの更新実施時間を指定します。更新実施時間とは、ホットショット・フォルダに対する書き込みや変更が検知されてからデータセンタとの同期が開始されるまでの遅延時間を指します。

通常フォルダに対する書き込みや変更は連続的に発生するものです。そのため変更が検知される度にデータセンタとの同期処理を実行すると通信ネットワークの負荷が増大してしまう可能性があります。そこで変更の検知から同期処理の実行までの遅延時間を設けることで、データセンタとの同期処理をまとめて行うようにします。

更新実施時間は分単位で指定します。指定可能な値は 1 から 60 分となります。通常は 3 分程度に設定することをお奨め致します。なお、この設定は監視モードが有効に設定されたホットショット・フォルダだけに有効となります。監視モードが無効なホットショット・フォルダは、ユーザが手動で同期処理を行う必要があります。

- リストキャッシュ値**

データセンタ・ビューに表示されるリビジョン情報の最大値を指定します。HotShot 製品では、クライアント PC 上のファイルに変更が発生する度に、変更分だけを差分としてデータセンタに送信します。このため変更が頻繁に行われるファイルに対する変更履歴は、膨大なものになります。

リストキャッシュ値とは、これら履歴レコードをホットショットリポジトリ・ビューでどれだけ一度に表示するかを設定するものです。設定可能な値は 12 から 255 となります。通常は 12 程度をお奨め致します。

- クライアント ID**

HotShot クライアントが稼働するクライアント PC に任意の ID を付けることができます。HotShot クライアントはホットショット・フォルダ情報をここで指定されるクライアント ID と共にデータセンタに保存します。会社や自宅などの PC 毎に異なる ID を付けておくことで、ホットショット・フォルダ情報を個別に管理することができます。

デフォルトはクライアント PC のホスト名が割り当てられます。

データセンタのパスワード変更

HotShot 製品はネットワーク通信で SSL を採用していますので、パスワードが盗聴される心配はありません。但し、パスワード漏洩など様々なセキュリティ事故を想定すれば、定期的にデータセンタのパスワードを変更することは重要です。

一般にパスワードを決定する際に注意すべき基本原則があります。それは「可能な限り**長いもの**にする」ということです。推測され難い言葉を選択するものではありません。パスワード長が長ければ長い程強度が上がります。

- **悪いパスワード例**

serwe 推察しにくい言葉でも、ブルータスフォースを利用すれば容易に推察されます。

yamada 推察しやすくまた辞書攻撃で容易に推察されます。

beautiful 同上

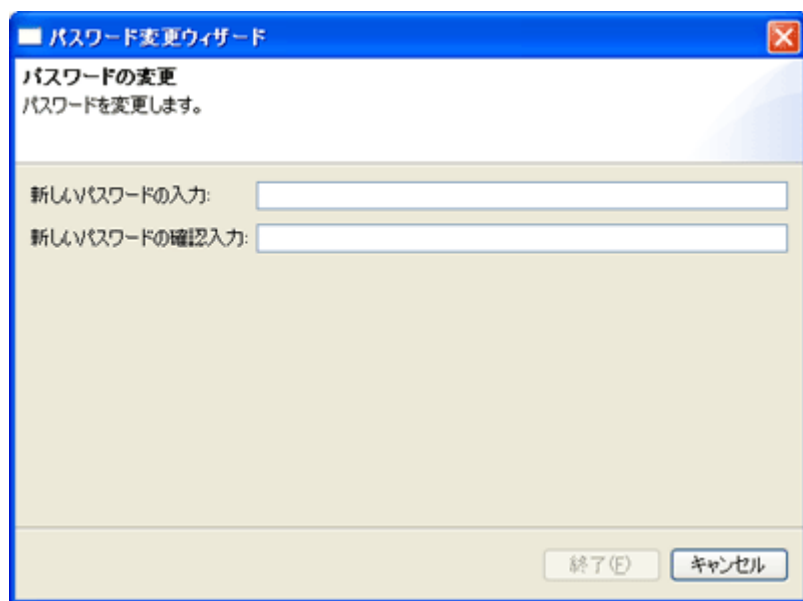
- **良いパスワード例**

serweserweserwe

Thisisapenthatihad

beautifullifeintokyo

ツールバーから[ツール] -> [パスワードの変更]を選択します。



■ パスワード変更ウィザード

パスワードの変更
パスワードを変更します。

新しいパスワードの入力:

新しいパスワードの確認入力:

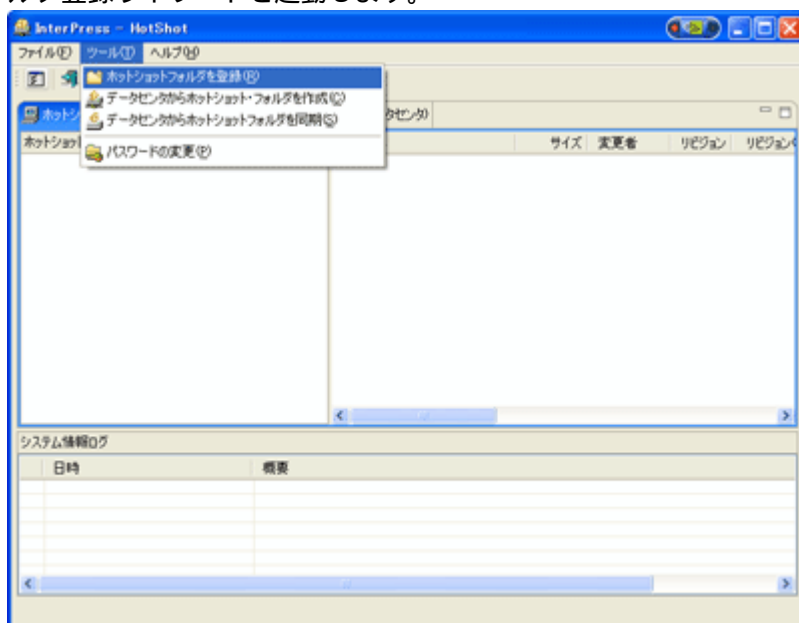
終了(E) キャンセル

ホットショット・フォルダの作成

クライアント PC ユーザは、データセンタに同期を行いたいローカルフォルダを「ホットショット・フォルダ」として登録する必要があります。登録されたローカルフォルダは、以降 HotShot クライアントによってデータセンタと同期が採られるようになります。

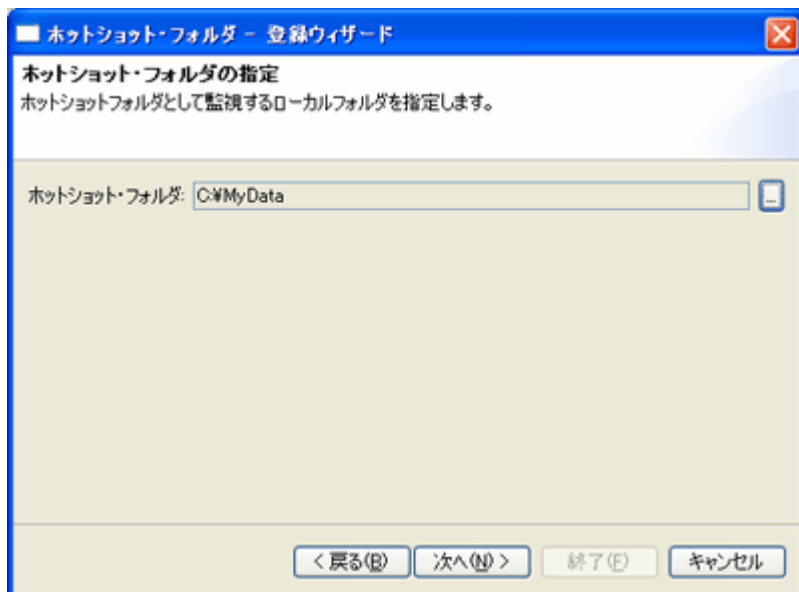
ホットショット・フォルダ登録ウィザード

ツールバーから[ツール(T)] -> [ホットショット・フォルダを登録(R)]を選択してホットショット・フォルダ登録ウィザードを起動します。



ホットショット・フォルダの指定

ホットショット・フォルダとして登録をするローカルフォルダを指定します。



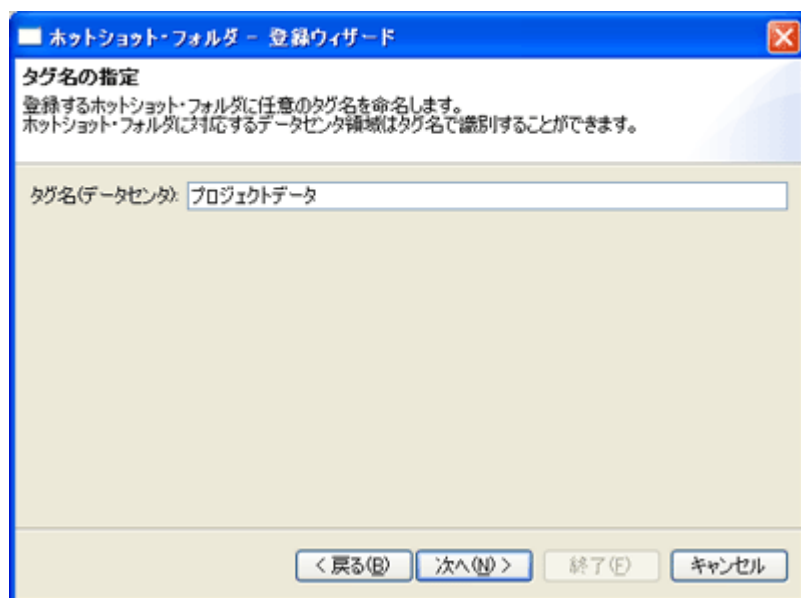
なおホットショット・フォルダとして登録できるローカルフォルダは以下の制限があります。これら制限に該当するローカルフォルダを登録することはできませんのでご注意ください。

- 既に登録されたホットショット・フォルダを含むフォルダ
- ルートドライブ (C ドライブ丸ごとなど)
- ネットワークドライブ
- 仮想ドライブ上のフォルダ
- Windows システム領域 (C:\Windows など)
- 不可視フォルダ

通常はユーザデータが格納される一般フォルダを選択します。

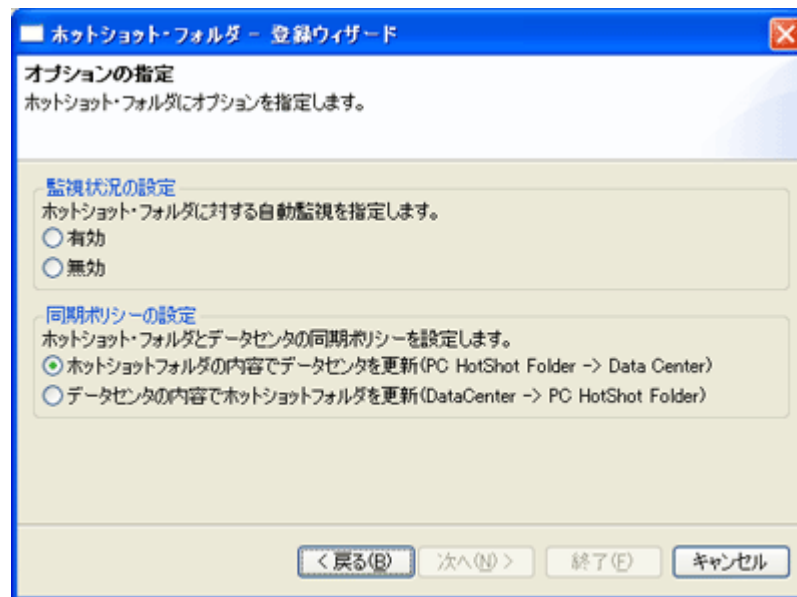
タグ名の指定

次にホットショット・フォルダにタグ名を指定します。タグ名とはデータセンタ内で参照される、HotShot フォルダに対する別名です。したがってデータセンタ内ではタグ名でホットショット・フォルダを認識することができます。



オプションの指定

ホットショット・フォルダに対するオプションを指定します。設定可能なオプションは監視モードと同期ポリシーとなります。



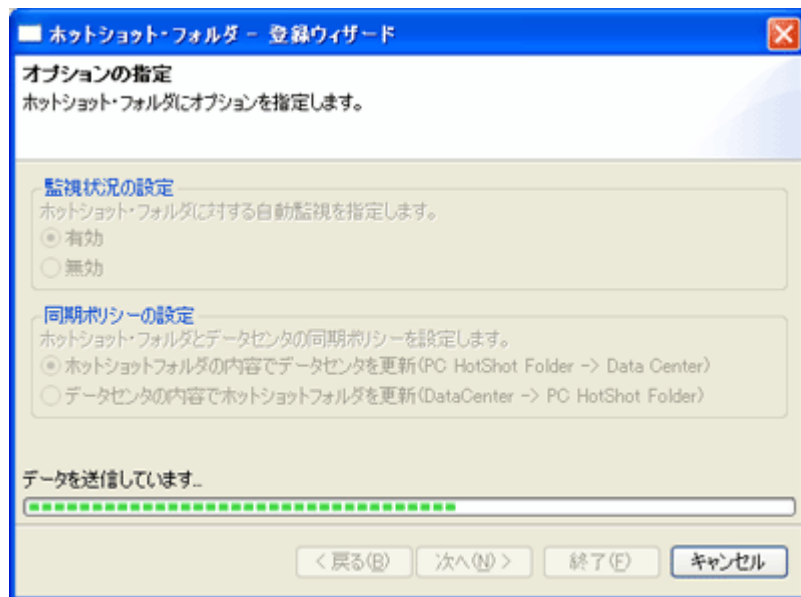
監視状況の設定(監視モード)

- **有効:**
ホットショット・フォルダを自動監視します。HotShot クライアントがホットショット・フォルダに対する変更を自動的に検知し、データセンタとの同期を行います。
- **無効:**
ホットショット・フォルダを自動監視しません。ユーザは手動でホットショット・フォルダとデータセンタの同期を行う必要があります。

同期ポリシーの設定

- **ホットショット・フォルダの内容でデータセンタを更新(PC HotShot Folder -> Data Center):**
常にクライアント PC 上のデータでデータセンタを同期します。通常はこちらのポリシーを選択します。
- **データセンタの内容でホットショット・フォルダを更新(DataCenter -> PC HotShot Folder):**
常にデータセンタに置かれたデータで、クライアント PC 上のホットショット・フォルダを更新します。このポリシーは複数のクライアント PC でデータ共有をする際に便利です。なおクライアント PC 上のホットショット・フォルダに変更をかけても、データセンタとの同期後には全てデータセンタ側の内容に戻されます。

「終了」ボタンを選択することでデータセンタへのデータ登録作業が開始されます。



以上でホットショット・フォルダの登録が終了しました。データセンタとの同期準備が整いました。

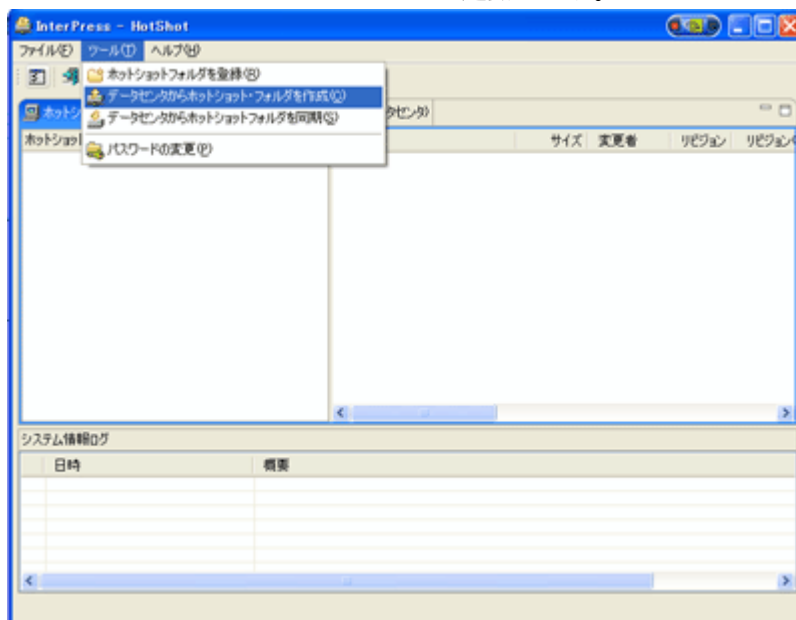
データセンタからホットショット・フォルダを作成

データセンタに格納されたデータ領域から、手元のクライアント PC 上にホットショット・フォルダを作成します。作成するホットショット・フォルダには監視モードと同期ポリシーを設定することができます。

例えば、会社のデスクトップ PC 上に既にホットショット・フォルダが設定されており、それと全く同じ内容のホットショット・フォルダを自宅のノート PC 上に作成したい場合などに役立ちます。データセンタにあるデータ領域を手元のノート PC 上にホットショット・フォルダとして作成することで、社内のデスクトップ PC と自宅のノート PC とでデータ共有を行うことができます。

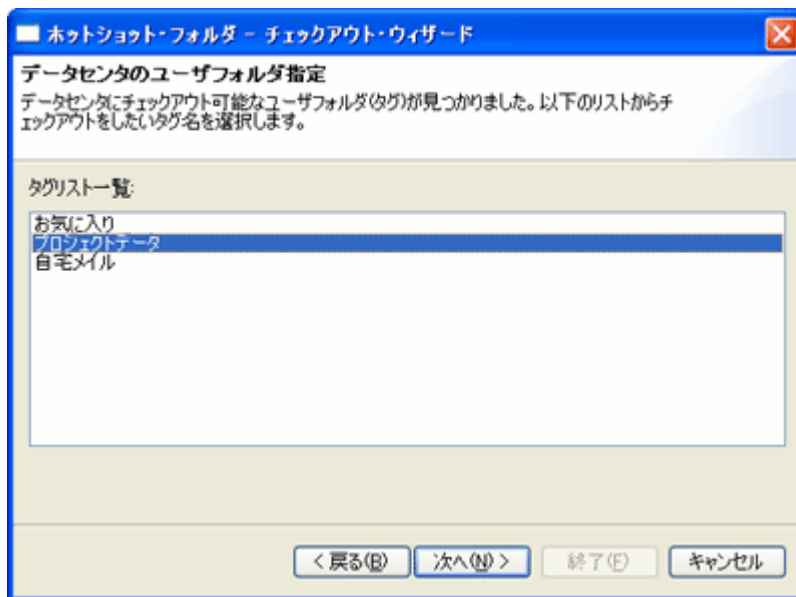
チェックアウトウィザード

[ツール(T)] -> [データセンタからホットショット・フォルダを作成(C)]を選択してホットショット・フォルダ・チェックアウトウィザードを起動します。



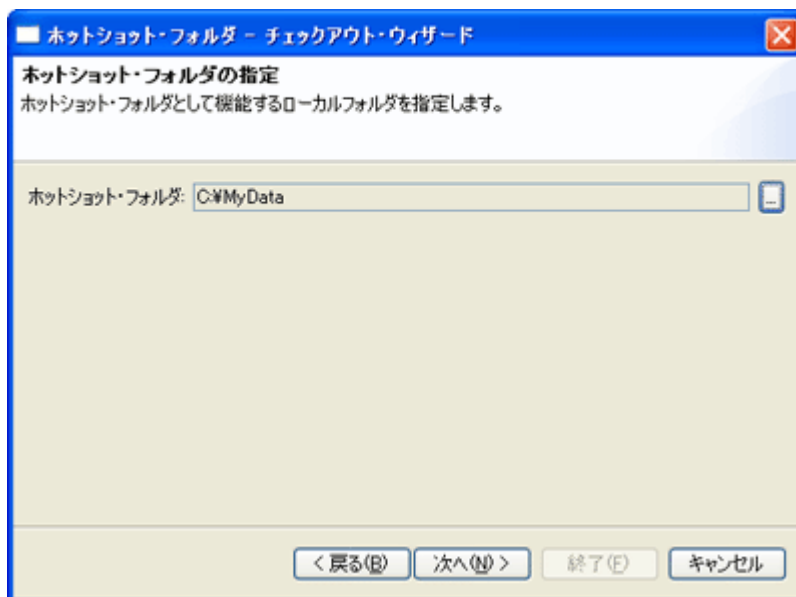
データセンタのユーザフォルダ指定

データセンタに登録済みのタグ名一覧が表示されるので、クライアント PC に取り出したいものを選択します。



ホットショット・フォルダの指定

ホットショット・フォルダとして機能させるフォルダを指定します。ここで指定されたフォルダ配下にデータセンタに格納された全てのデータが取り出され、以降ホットショット・フォルダとして機能することになります。

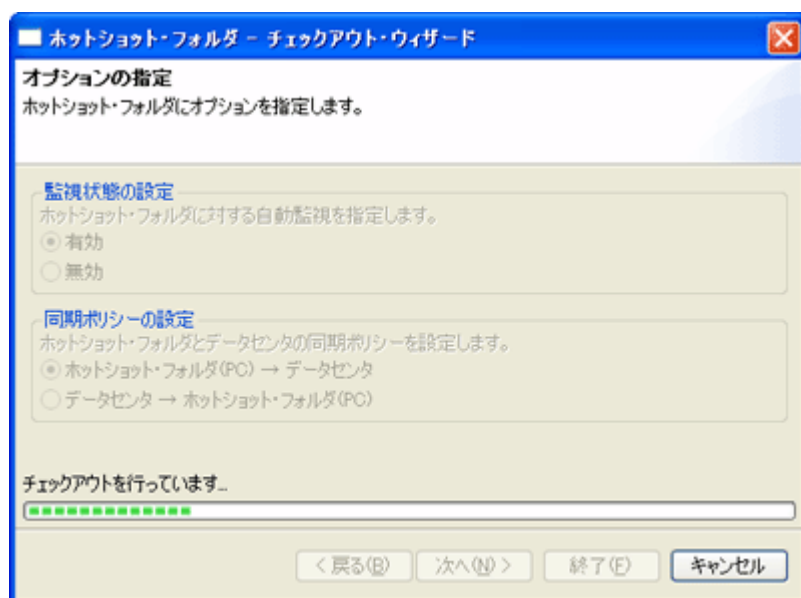


- 既にホットショット・フォルダとして登録されているフォルダを指定することはできません。
- 既存のフォルダをホットショット・フォルダとして指定した場合、そのフォルダ配下の既存ファイルは全て消去されてしまいますのでご注意ください。

オプションの指定

ホットショット・フォルダのオプションを指定します。「ホットショット・フォルダの作成」をご覧ください。

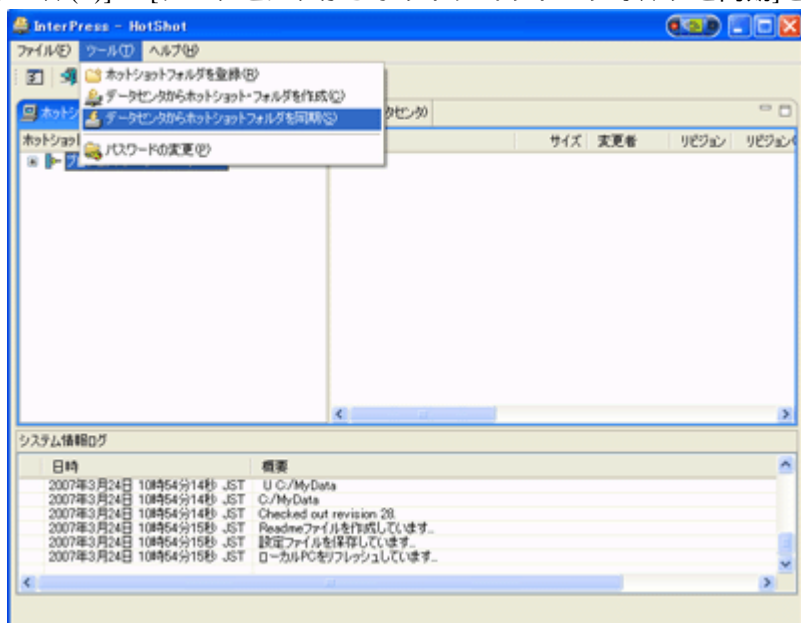
「終了」ボタンを選択してクライアント PC 上にホットショット・フォルダを作成します。



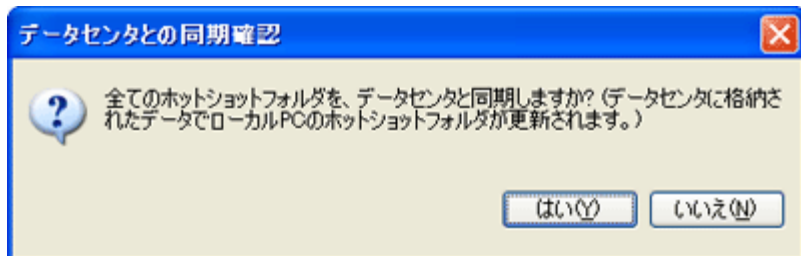
データセンタからホットショット・フォルダを同期

登録済みのホットショット・フォルダをデータセンタに格納されたデータで同期します。(データセンタ -> ホットショット・フォルダ(PC))

[ツール(T)] -> [データセンタからホットショット・フォルダを同期]を選択します。



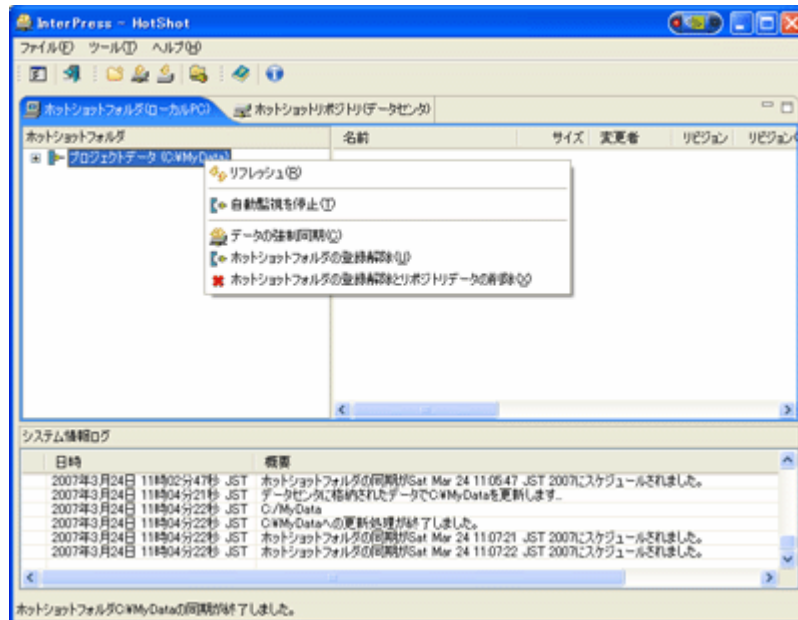
これはデータセンタとクライアント PC 上のホットショット・フォルダ強制的に同期する場合に使われます。この処理によりホットショット・フォルダの内容はデータセンタのデータで更新されます。



なおホットショット・フォルダ内に新規のデータが存在する場合には、それらは全て待避されます。なお、監視モードが有効ではないホットショット・フォルダには何も行われません。

ホットショット・フォルダ毎に提供される操作

HotShot クライアントでは、登録されたホットショット・フォルダ毎に処理を行うことができます。これら操作はローカル PC ビューのサブメニューを利用することになります。



ホットショット・フォルダの同期監視モードの切り替え

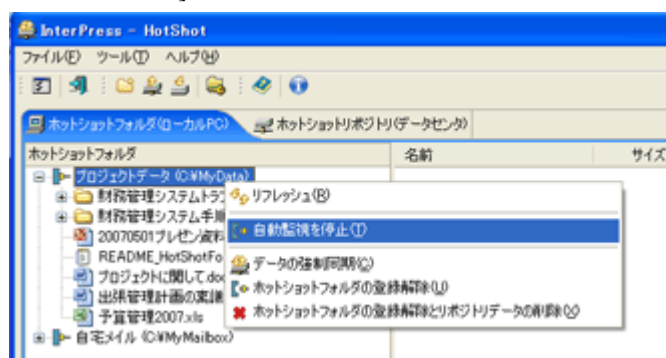
登録されたホットショット・フォルダには監視モードが設定されています。これはホットショット・フォルダ登録後も簡単に切り替えることができます。

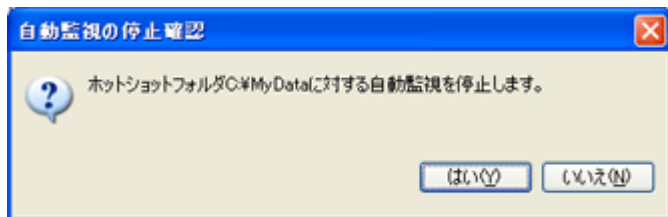
ホットショット・フォルダに対してある程度まとまった変更を行いたい場合には、一旦監視モードを無効にします。そしてまとまった変更を行った後に、再度監視モードを有効にします。監視モードを有効化する際にデータセンタとの同期処理を選択することでデータセンタとの同期処理を一気にまとめて行うことができます。

自動監視の停止

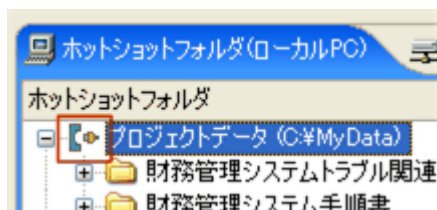
ローカル PC ビューからモードを切り替えたいホットショット・フォルダを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。

[同期監視を停止]を選択します。





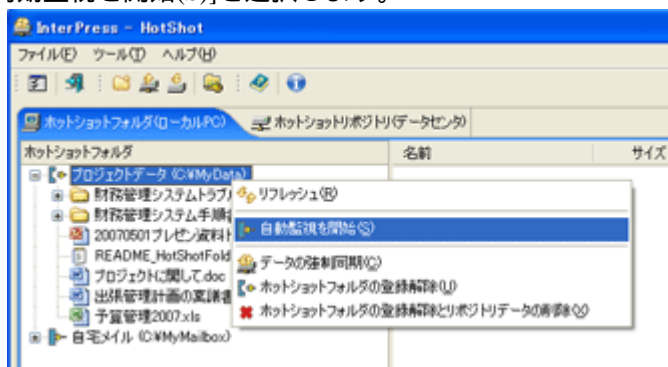
処理が成功するとホットショット・フォルダのアイコンマークが監視無効アイコンに切り替わります。



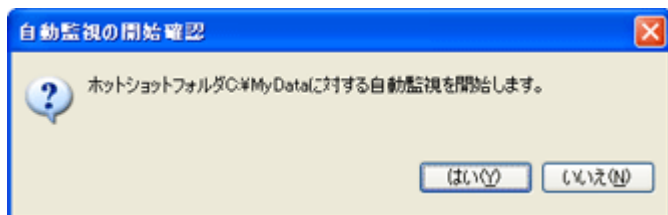
自動監視の開始

ローカル PC ビューからモードを切り替えたいホットショット・フォルダを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。

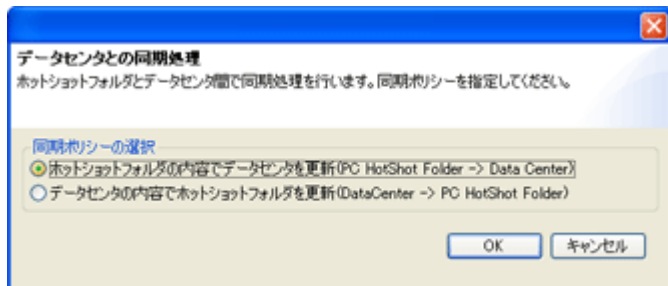
[同期監視を開始(S)]を選択します。



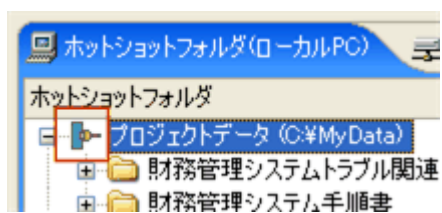
データセンタとの同期ポリシーの確認ダイアログが現れます。これは監視を再開するにあたりホットショット・フォルダの内容をどのようにデータセンタと同期するかを指示します。



データセンタとどのように同期を行うか同期ポリシーを選択します。



処理が成功するとホットショット・フォルダのアイコンマークが監視開始アイコンに切り替わります。

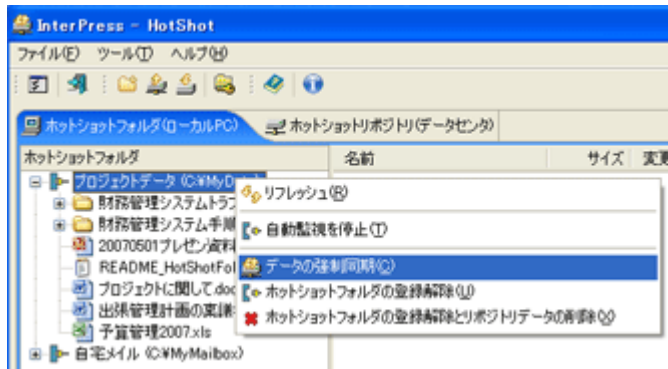


データの強制同期

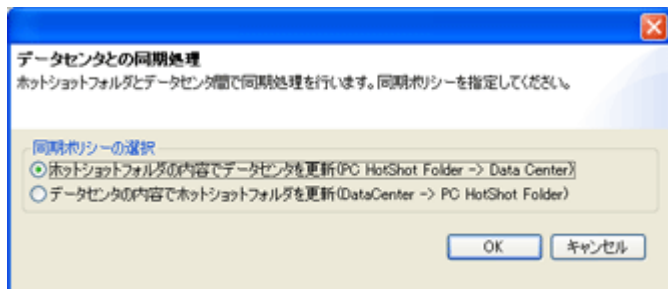
ホットショット・フォルダの内容をデータセンタと強制的に同期することができます。前述の「データセンタからの同期」は同期ポリシーが片方向だけでしたが「データの同期」では同期ポリシー(同期方向)を選択することができます。またホットショット・フォルダの監視モードに関わらずデータ同期を行うことができます。

ローカル PC ビューから強制同期を行いたいホットショット・フォルダを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。

[データの強制同期]を選択します。



データセンタとの同期ポリシーの確認ダイアログが現れますので、ホットショット・フォルダの内容をどのようにデータセンタと同期するかを指示します。



なお更新ポリシーとして「データセンタの内容でホットショット・フォルダを更新」が設定されたホットショット・フォルダには、上記確認ダイアログは表示されません。

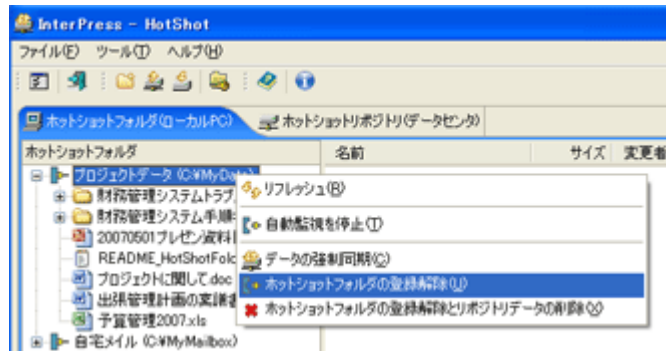
ホットショット・フォルダの登録解除

既に登録されたホットショット・フォルダをクライアント PC から登録解除します。HotShot クライアントに登録されたホットショット・フォルダはデータセンタと仮想的に「接続」されていることとなりますが、これを「切断」することでクライアント PC からホットショット・フォルダが消去されることとなります。

なお、ホットショット・フォルダとして登録されていた**クライアント PC 上のフォルダの内容が削除されることはありません**。ホットショット・フォルダからホットショット管理ファイルだけが削除されて、通常のフォルダに戻されるだけです。また「切断」後も**データセンタには依然としてデータが残ったまま**となりますので、それを他のクライアント PC 上に新たなホットショット・フォルダとして作成(利用)することは可能です。

ローカル PC ビューから切断を行いたいホットショット・フォルダを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。

[ホットショット・フォルダの登録解除]を選択します。



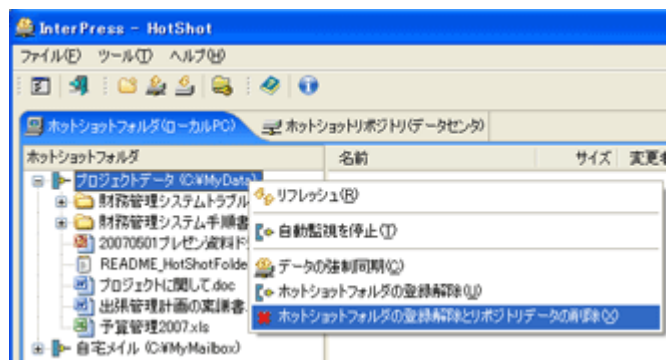
ホットショット・フォルダの登録解除とリポジトリデータの削除

既に登録されたホットショット・フォルダをクライアント PC から登録解除すると同時にデータセンタからも完全に削除します。

なお、ホットショット・フォルダとして登録されていた**クライアント PC 上のフォルダの内容が削除されることはありません**。ホットショット・フォルダからはホットショット管理ファイルだけが削除され、通常のフォルダに戻されるだけです。但し、**データセンタのデータは完全に消去されてしまう**ため、他のクライアント PC 上に新たなホットショット・フォルダとして作成(利用)することはできません。

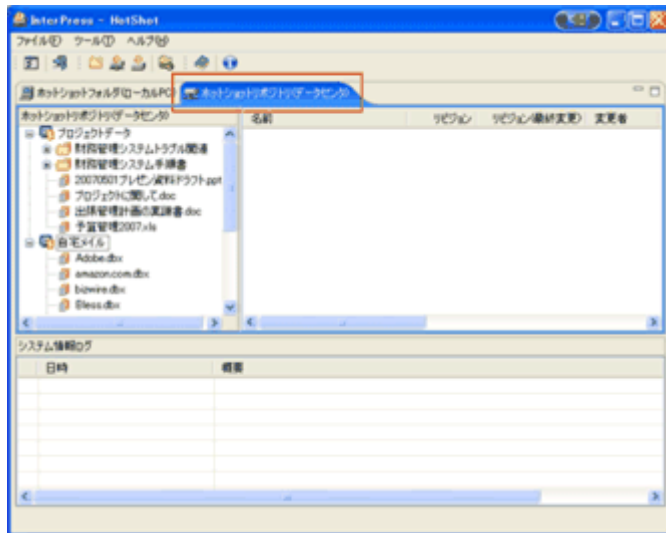
ローカル PC ビューからホットショット・フォルダを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。

[ホットショット・フォルダの登録解除とリポジトリデータの削除]を選択します。



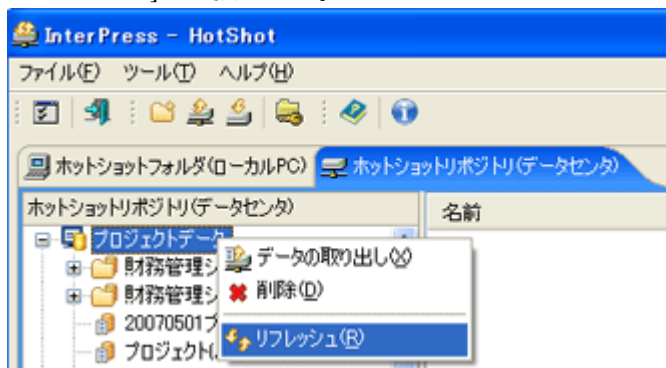
ホットショット・リポジトリの操作

HotShot クライアントには、ホットショット・リポジトリを操作するためのデータセンタ・ビューが提供されます。[ホットショット・リポジトリ]タブを選択することでデータセンタ・ビューを表示させることができます。



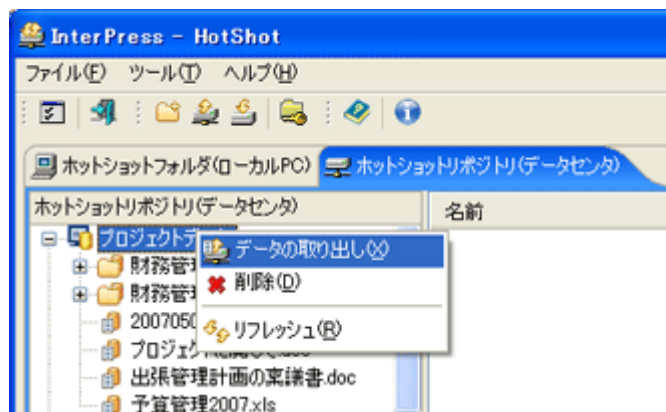
リフレッシュ

データセンタリポジトリにアクセスを行い、ノードリストを取得/表示します。
データセンタ・ビュー上でマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。
[リフレッシュ]を選択します。

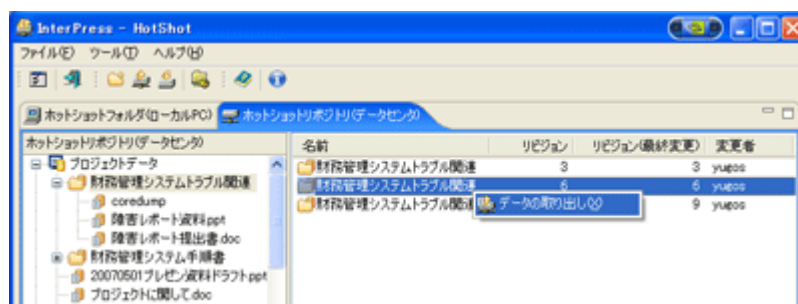


データの取り出し

データセンタに格納されたデータをクライアント PC 上に取り出します。あくまでもデータのコピーを取り出すものであり、ホットショット・フォルダの類を作成するものではありません。
なお取り出すデータを、左のツリービューから選択する場合には最新リビジョンのデータが取り出されます。また右のテーブルビューから選択する場合にはリビジョンを指定してデータを取り出すことができます。
データセンタ・ビューからフォルダもしくはデータを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。
[データの取り出し]を選択します。



またホットショット・リポジトリビューからはリビジョン単位でのデータ取り出しができます。

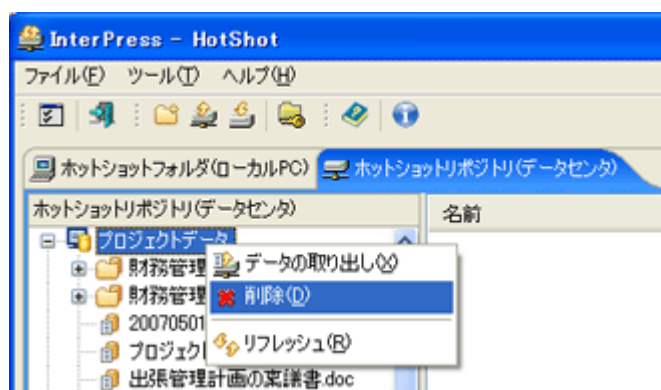


この例では財務管理システムトラブル関連というフォルダが 3 世代分管理されている状況を示しています。この中からリビジョン 6 を取り出すのであれば、マウスで選択して右ボタンからデータの取り出しを選択します。

削除

データセンタリポジトリ上のデータを削除します。通常データセンタリポジトリのデータを削除するにはホットショット・フォルダを経由させた削除を行ってください。既にクライアント PC 上にホットショット・フォルダとして展開されているデータやフォルダを、データセンタリポジトリから削除してしまうと整合性の問題が発生します。この機能はホットショット・フォルダとして展開されていないデータをデータセンタリポジトリから削除するためのものと考えてください。

データセンタ・ビューからフォルダもしくはデータを選択します。そしてマウス右ボタンを選択してサブメニューを表示させます。



[削除]を選択します。

プロパティ設定

HotShot クライアントでは、機能拡張のためのプロパティが用意されています。これらはユーザ毎のホームディレクトリ配下に HotShotClient.properties ファイルとして保存されています。これらは必要に応じて設定変更をしてください。不必要に変更を行うとシステムの挙動に影響が発生する可能性がありますのでご注意ください。

変更方法は、ホームディレクトリ配下にある HotShotClient.properties ファイルをエディタなどで開き、追加もしくは変更を行います。

- hotshot.client.sghost
セキュリティゲートウェイのホストアドレスを設定します。基本的には再設定する必要はありません。指定しなかった場合は、デフォルト値として 127.0.0.1 が使用されます。
- hotshot.client.sgport
セキュリティゲートウェイのポート番号です。指定しなかった場合は、デフォルト値として 65321 が使用されます。もしもクライアント PC 上で 65321 番が利用済みである場合には変更を行います。以下の一行をプロパティファイルに追加します。
hotshot.client.sgport=<New port number>
- hotshot.network.tcpbufsz
ネットワーク TCP のバッファ・サイズです。指定しなかった場合は、デフォルト値として 32768(32Kbyte)が使用されます。大きな値を設定するとネットワーク性能が上がりますが、データセンタのオペレーティングシステムがサポートするサイズを超えることはできません。通常はデフォルト値で十分です。
- hotshot.network.connectiontimeout
データセンタとの接続が成功するまでのタイムアウト値です。指定しなかった場合は、デフォルト値として 4,000 ミリ秒(4 秒)が使用されます。イントラネットでは特に変更する必要はありませんが、低速ネットワーク環境で頻繁に接続エラーが発生する場合には変更が必要になるかもしれません。
hotshot.network.connectiontimeout=8000
- hotshot.network.ssl.keystore.file
SSL キーストアファイル名を設定します。指定しなかった場合は、デフォルト値として jsse_client_ks が使用されます。HotShot クライアント製品には jsse_client_ks ファイルが添付されていますが、新規に SSL 署名を設定する場合は変更をします。
- hotshot.network.ssl.keystore.password
SSL キーストアファイルのパスワードを設定します。指定しなかった場合は、デフォルト値として上記 jsse_client_ks ファイルに設定されたパスワード jsse_client_ks_pass が使用されます。
- hotshot.client.ignorefilter
ホットショット・フォルダ内で同期除外するファイルフィルタを設定します。ワイルドカード等の正規表現を使用することができます。指定しなかった場合は、デフォルト値として以下のフィルタが使用されます。
hotshot.client.ignorefilter=
 "*.*bak *.swp ~\$*.* ~*.tmp *.*\$ README_HotShotFolder.txt *.hotshot-safestore"
上記のようにフィルタを空白区切りで指定をします。なおフィルタ設定の際には、上記デフォルト値を必ず含めてください。